

事務事業名	医療費適正化特別対策事業（国民健康保険）					事務事業No.	311 - 11					
1. 基本情報												
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名						
市民環境部	医療保険課	総務係	主事補	嶋野 結	課長	大隈 友加						
施策体系	総合計画	政 策	3	健幸・子育て								
		施 策	1	健幸都市づくりの推進								
		基本事業	1	健幸都市づくりの推進								
	その他の計画	個別計画	なし									
根拠法令・条例・要綱等	国民健康保険法第82条の2、福岡県医療費適正化計画											
事業開始年度	昭和33年	事業終了年度	継続		事務事業類型	ソフト事業						
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし		実施計画期間	—						
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）												
概要	平成30年度から国民健康保険の県単位化に伴い改正国民健康保険法第82条の2の規定により定められた福岡県国民健康保険運営方針に基づき実施する。 ※医療費適正化事業とは・・・医療に要する費用の適正な給付や中長期的に高齢者の医療費の伸びを徐々に下げ、将来的に医療費を削減するための事業（具体的事業：第三者行為求償、医療費通知、レセプト点検、特定健診・特定保健指導等）											
対象	働きかける相手・もの	国民健康保険被保険者、診療報酬明細書（レセプト）										
手段	方法・働きかけ（活動指標）	医療費通知やジェネリック医薬品の差額通知を被保険者に通知することにより医療費削減について啓発する。 レセプト点検（内容点検）により第三者行為の疑いのあるレセプト等を抽出										
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	国民健康保険財政の健全化のため、医療費の適正給付や被保険者の医療機関への適正受診を促すことで医療費を削減する。										
3. 活動指標（決算成果説明書と運動）												
指標名		単位	指標の説明（算式等）		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
レセプト点検人数		人	年間のレセプト点検実施者総人数		608	619	644					
ジェネリック医薬品の差額通知回数		回	年間の通知回数		12	12	12					
4. 成果指標（決算成果説明書と運動）												
指標	内容点検財政効果率	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		%	0.4	目標値	0.4	0.4	0.4					
説明	再審査請求することで削減された保険者負担額を総保険者負担額で除して算出	方向性	達成目標年度	実績	0.25	0.18						
		維持	毎年度									
指標	ジェネリック医薬品普及率（金額ベース）	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		%	50	目標値	50	50	54					
説明	ジェネリック医薬品額÷（ジェネリック医薬品額+ジェネリック医薬品のある先発医薬品額）	方向性	達成目標年度	実績	53.1	52.9						
		維持	毎年度									
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
				目標値								
説明		方向性	達成目標年度	実績								
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）												
経費区分	一般会計	—				特別会計	特別会計					
予算科目・事業	会計	2	国民健康保険特別会計	款	1	総務費	項	1	総務管理費	目	3	医療費適正化特別対策事業費
	大	2	その他の医療費適正化特別対策事業費	中	1	医療費適正化特別対策事業費	他 0 事業					
投入人員 （当該事務事業に対して1年間に投入した人員）	(R2以降)		前年度実績（千円）		本年度実績（千円）		増減理由（10%以上の場合）			次年度予算（千円）		
	正職員		0.70	人	5,563	0.78	人	6,353		0.92	人	7,493
	任期付職員(保育士)		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	1級フル		0.15	人	440	0.00	人	0		0.00	人	0
	1級パート		0.55	人	1,155	0.72	人	1,894		0.55	人	1,447
	2級パート		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）				7,158			8,247	—			8,940	
事業費	直接事業費（B）				26,956			26,138			30,439	
	総事業費（A+B）				34,114			34,385			39,379	
直接事業費のうち の主な歳出内訳	レセプト点検委託料				16,170			16,170			16,170	
	通信運搬費				5,451			5,942			7,243	
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）				0			0			0	
	国・県支出金				7,382			8,214			8,285	
	市債				0			0			0	
	一般財源				26,732			26,171			31,094	
その他（ ）												

6. 事務事業の事後評価★			
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載	
妥当性 評価	高い	市町村国民健康保険を市が運営する必要があるうえで、将来的な医療費を削減することは財政負担の軽減のために必要なため。	
効率性 評価	高い	国保連合会や業者で実施できる部分は実施するなど、現在の実施方法が最適であり、人員、事業費ともに最低限の投入量のため、現状以上の省力化は困難である。	
有効性 評価	高い	現状医療費の増加が続いている為、医療費適正化事業は必要不可欠であり、医療費削減のために事業の継続は必要である。	
7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに	ジェネリック医薬品の普及啓発、適正受診啓発およびレセプトの点検方法等検討を行う。
一次評価	現状維持	実施できる改善策	
	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期	医療費抑制のために、残薬への取組のために啓発等の事業実施について検討していく。
	現状維持	的に実施する改善策	
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入			
ジェネリック医薬品の普及啓発を積極的に行うとともに、適正受診啓発及びレセプトの点検方法については定期的に打合せを行った。また、第三者求償の該当有無の確実な確認を行い、該当の場合は速やかに第三者求償へ案内した。			
8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★			
成果	短期的に効果が表れる事業としてレセプト点検、第三者行為求償、ジェネリック医薬品の差額通知等があるが、それぞれの取組に対して一定の効果は出ており、医療費の削減に繋がっているものと考えている。 また、レセプト点検や消防署からの救急搬送記録の情報提供により、着実な第三者求償対象者への案内に至っている。		
課題	レセプト点検、ジェネリック医薬品について、現状を上回る効果の発生に向けての取り組みと、療養費支給の適正化が今後の課題として挙げられる。		
9. 今後の事業の方向性と改善策			
成果の方向性	理由 医療費の削減を行うことで財政負担の軽減につながるため。		
現状維持	理由		
コスト投入の方向性	理由 今後の医療費抑制のために、啓発等の取組が必要なため。		
現状維持	理由		
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★			
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策		ジェネリック医薬品の普及啓発、適正受診啓発およびレセプト点検方法等検討を行う。	
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策		医療費抑制のために、継続して取り組みを進めるとともに新たな取り組みについても検討を図る。	
評価変更理由	成果の方向性	事業内容の充実を図り、最終的には全体的な医療費削減に繋げる方向性により「拡充」 医療費削減をコストと捉えたと縮小になるが、個別事業で考えると事業内容の充実を図るためには一定のコストも必要となるため、現在の事業費見直しと併せて方向性としては「現状維持」	
	拡充		
	コスト投入の方向性		
	現状維持		